

モバイルアイアンによって 製油所の現場業務効率化を実現した出光興産

デバイス管理やアプリケーション管理機能の充実と、 主体的な提案をしてくれたMobileIronを選択

出光興産は、1911年に出光商会として北九州の門司で石油販売業を創業、その後1940年に出光興産株式会社と社名変更して事業を広く展開している。原油調達から石油製造、自動車用・航空機用・工業用の燃料・潤滑油販売まで、幅広く燃料油事業を展開するほか、基礎化学品、高機能材なども取り扱っている。また電力や再生可能エネルギー関連の運営・販売・研究開発にも力を入れている。

長きにわたって石油類の精製・販売などを行っている同社が、外出先でも業務を安全に進められる環境整備を目指して導入したのがMobileIronの統合エンドポイント管理(UEM)だ。MobileIronを活用することで高い安全性を確保し、デスクワークのモバイル化だけでなく、製油所などの現場保全業務の効率化にも役立てている。

グローバルに活躍する出光興産が2015年、モバイル戦略の刷新に取り組みはじめたのは、従業員がどこでもモバイルデバイスを使って重要なデータにアクセスし、業務が行えるように環境を整えるのが目的だった。

「メールなどはスマートフォンで閲覧していましたが、当時利用していたMDMでは専用アプリの機能で添付ファイルが送信できないという課題がありました。すでにOffice 365は利用しており、Microsoft Intuneを利用できる環境はあったのですが、当社のセキュリティ要件にそぐわないところがありました」と語るのは出光興産株式会社 情報システム部 共通IT推進課 課長の澤井 隆慶氏だ。

統合環境でコントロールしやすいことから、それまで使っていたスマートフォンからiPhoneへのリプレースも検討されており、iPhoneとの相性がよくiOS標準アプリが利用できることなども重視した結果、選択されたのがMobileIronだった。

「UEMを選定する上で、iOSデバイスやアプリのセキュリティと管理機能があり、その稼働に安定性が確保できるのが前提でした。MobileIronはさらに、当社のビジネスをより効率化するための目的を理解した上で、主体的に動いてくれる印象がありました。『こういうことをやりたい』とリクエストすると、よりスマートな方法を教えてください」と澤井氏は選択の決め手を語る。

UEMとアプリ管理をMobileIronとMicrosoft Intuneの組み合わせで実現

MobileIronは2016年5月、シンガポールで活動する従業員が先行的に利用することになった。3カ月後には本格導入として1600アカウントが追加された。そして2017年には社内サーバーへのアクセスのために「MobileIron Tunnel」のper-App VPN機能を追加した。

モバイル管理やセキュリティ機能の確保にMobileIronを利用し、Office 365などのマイクロソフトのアプリをコントロールするためにMicrosoft Intuneを組み合わせているという。「Microsoft Intuneだけで利用すると個人用のOneDriveに保存ができてしまうので、それを防ぐため、MobileIronとBox for EMMを組み合わせるなど工夫をしています」(澤井氏)

業務ではOffice 365やBox for EMMに加えて、Salesforceなどのアプリも利用している。加えて、MobileIronの「Web@Work」を利用してイントラネットへのアクセスも行うなど、出光興産のモバイルでの業務環境が充実化している。

「当社で採用するセキュリティ製品は安全で安心できるのはもちろん、安定稼働するのが前提条件です。ユーザーは業務で利用するシステムが動作しなくなることは考えていません。その観点から、MobileIronはセキュリティがしっかりと確保できており、ユーザーの生産性を維持することができます」と澤井氏は確実性や安全性を優先する姿勢を語る。

出光興産株式会社



■主な製品・機能

- 統合エンドポイント管理(UEM)
- Tunnel(Per App VPN)
- Web@Work

■主な利点

- 必要とされる機能をカバーした UEM
- 安定稼働し確かな安全性を確保してくれる信頼性
- 安全性を確保しつつiPhoneの標準メーラーなどをそのまま利用できる

■MobileIronが選ばれた理由

- 充実したUEM機能を持っており、モバイルワークの安全性と効率化を両立
- ユーザーの要望を理解し、意図を汲み取る積極的な提案力

製油所などの現場保全業務でもモバイルデバイスでデータ共有を効率化

現在、出光興産では6000台のiPhoneとiPadのセキュリティをMobileIron Cloudで保護している。当初は外出先で承認作業などが必要な管理職から利用を開始し、事務系で外出が多い人などへと広げていった。現在は製油所ごと、事業部単位で希望を受けて追加導入が行われているという。

「特に製油所などの保全業務効率化のために活用しています。製油所内の機器や車両の保全には、対象部分の写真撮影やメンテナンスのための図面参照が必要です。モバイルデバイス導入以前は大量の写真をオフィスに持ち帰ってから整理したり、必要な図面を取りに戻ったりして時間がかかっていました。これがiPhoneからBox for EMMのアプリで撮影できるので、写真が即座に保存できるようになり、図面も参照できるようになったことで効率的になりました」（澤井氏）

現場とオフィスのコミュニケーションも以前はトランシーバーを使っていたが、今はモバイルデバイスを使ってチャットでのコミュニケーションに変わった。これにより、具体的でわかりやすい報告や相談が可能になったという。

「製油所などの現場は、モバイルデバイスによる業務改善の経緯などを知らがっています。こうした成功例は、各地を巡回して説明会の場で現場の担当者から語ってもらっています」と出光興産株式会社 情報システム部 共通IT推進課の篠原 賢司氏は語る。業務改善について現場のリアルな声を届けることで他部署にも伝わりやすいだけでなく、語る側としても自分たちの努力が伝えられることでよりモバイル活用へのモチベーションが向上するなど、いい環境ができあがっているようだ。こうした説明を受けて、自らの事業部予算を使ってでも導入したいという希望を出した部署への導入が進み、より業務の効率化が図れるという仕組みだ。

現場業務で活躍する人材を埋もれさせない丁寧なサポート体制も用意

現場からの声によってMobileIronの導入が進んでいく。基本的には押しつけられたシステムを無理に利用するという状態にはならない。しかし、誰もがスムーズに利用できるとはいえない状況もあるようだ。

「当社の製油所は特に年齢差が大きく、ベテランと若手の間の世代の人員が少ないです。製油所の業務に精通しているベテラン社員の知見を若手と共有することが重要ですが、ベテラン社員の中にはiPhoneが難しいと感じる人もいます。モバイルデバイスをうまく活用するためのサポートは必要です」と語るのは、出光興産株式会社 情報システム部 共通IT推進課の松本 祐介氏だ。

デバイスを使う上でのトラブルサポートでは、電話で問い合わせるだけでなく現場にオンサイトで技術者を派遣することも行っている。サポートにひと手間かけるだけで、ツールがきちんと使ってもらえるようになるという。

今後の展望 - iPadとMobileIronの活用

出光興産では、テレワーク推進のためにiPadの配布も拡大しており、外出先から行える業務を増やすためにペーパーレス化の促進なども行っている。「社内の要望を横断的に集めるプロジェクトが始まっているので、今はPCのみで利用しているシステム、例えばSAPのアプリ化などの対応も進むと考えています」と松本氏はさらなるモバイル活用の可能性を語る。MobileIronは今後もモバイルを中心としたゼロトラスト・アプローチで出光興産のモバイルワーカーを支えていく。

社 名 出光興産株式会社
設 立 1940年3月30日
資 本 金 1,683億円
従業員数 13,313名(連結)



出光興産株式会社
情報システム部 共通IT推進課
課長
澤井 隆慶 氏



出光興産株式会社
情報システム部 共通IT推進課
松本 祐介 氏



出光興産株式会社
情報システム部 共通IT推進課
篠原 賢司 氏